



河北町「ゼロカーボンかほく」宣言

河北町は、母なる川最上川を東に湛え、南には清流寒河江川、そして北西に緑豊かな山々を臨み、その恵みを享受しながら、豊かな経済、多彩な文化を形成、継承してきました。しかしながら、近年、世界各地で地球温暖化が原因とみられる気象災害が多発し、本町においても猛暑や集中豪雨、台風の巨大化等の異常気象による災害が頻発し甚大な被害を受けております。この「気候危機」ともいうべき状況に向き合い、脱炭素社会・循環型社会に向けた取り組みを加速し、生命・財産・社会インフラ・自然生態系を守り、これからの世代に長く引き継いでいかなければなりません。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命からの平均気温の上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されるとともに、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書では、「気温上昇を2℃よりリスクの低い1.5℃に抑えるためには2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにする必要がある」と示されています。

河北町においては、第8次総合計画において「未来につなぐ環境保全」を図るため、地球環境保全につながる身近な活動を多角的に展開するとともに、再生可能エネルギーの利用や省エネルギーを促進し、低炭素で持続可能な社会、資源循環型社会の実現に取り組むこととしています。このため、本日、「2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指し、「再生可能エネルギーの利用促進」、「省エネルギーの促進」、「資源循環の促進」の基本的な考え方のもと、「住宅・暮らし」、「産業・農業」、「輸送」、「公共施設等」、「森林」などの各分野で、町民、事業者と一緒に「ゼロカーボンシティ」の実現に向けて取り組むことを宣言します。

2022年10月29日

河北町長 森谷俊雄